

平成28年度県立学校長研究協議会 教育長あいさつ

平成28年10月14日(金)  
県庁第二別館 6階大会議室

本日は、大変お忙しい中を、県立学校はもとより、私立学校からも学校長の皆様に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から、愛媛の未来を担う人材育成に御尽力いただいております、厚くお礼を申し上げます。

さて、今年の夏は、甲子園大会に松山聖陵高校が初出場し、準優勝の北海高校を相手に互角に戦う活躍を見せたほか、全国高等学校総合体育大会では、相撲個人で津島高校、ボート女子で今治西高校、レスリング男子で八幡浜工業高校がそれぞれ優勝に輝くなど、23の個人、団体が入賞を果たしました。先日閉会式を終えた「第71回国民体育大会 希望郷いわて国体」でも、高校生が躍動し、天皇杯7位、皇后杯5位と、えひめ国体を来年に控えた本県にとって弾みとなる結果となりました。近年は、こうしたスポーツ面はもとより、文化活動や地域活性化の取組においても高校生の活躍が話題となることなく、皆様方の日頃の御指導に深く敬意を表するところです。

本日は、せっかくの機会でございますので、更なる活躍・発展に向け、本県教育の課題等について、何点かお話を申し上げ、御理解・御協力を賜りたいと存じます。

県教育委員会では、今年度の教育基本方針・重点施策として、確かな学力の定着と向上、高校の魅力化と地域との連携等を掲げ、本県教育の充実に努めることとしております。

確かな学力については、御案内のとおり、先日、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果が公表され、本県の平均正答率は小中学校とも全国6位、総合で5位、西日本1位と、調査以来、最高の順位となりました。また、えひめ国体に向けた「えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業」や、えひめ子どもの城で現在開催中の「えひめ子ども芸術祭」では、小中学校においても、子どもたちの健やかな心と体の育成に取り組んでいただいているところです。

小中学校の取組に加えて、高等学校では、確かな学力の更なる向上と豊かな心の育成に向けて、アクティブ・ラーニングやICT教育の推進に努めるとともに、「海外高校生による日本語スピーチコンテスト」参加者との交流、「日本の次世代リーダー養成塾」への参加のほか、SGH、SSH、SPHが一堂に会して行う、スーパーハイスクールコンソーシアムを通して、コミュニケーション力や問題解決力を身に付けたグローバルリーダーの育成に取り組んでいくこととしております。

次に、高校の魅力化は県立学校共通の課題であり、西条高校の国際文理科、今治工

業高校の機械造船科の新設のほか、新居浜東高校における健康・スポーツコースや、三崎高校のような、地域の活性化と学校の魅力化を結びつけた取組によって入学志願者を増加させた学校もありました。先日も、新居浜西、新居浜南、伊予の各校が、地域の要望に応える新しい類型やコース等の設置について、記者発表を行ったところです。

皆様方には、これらの取組や、先週の中四国地区校長教育研究協議会で発表された、徳島県立那賀高校、広島県立大崎海星高校等、県外高校の取組も参考にしながら、引き続き、地域と連携した学校の魅力化に取り組んでいただきますようお願いいたします。

また、先の参議院議員選挙において、本県の高校3年生相当の有権者の投票率は、県全体より高いという結果となりましたが、これは、各校が、模擬選挙などの体験的・実践的な主権者教育に積極的に取り組まれた結果であると認識しております。各校の取組に対して、感謝申し上げます。

特別支援教育については、今年4月の障害者差別解消法の施行も踏まえ、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、合理的配慮普及セミナーや巡回相談などを実施し、支援体制の充実を図っているところです。今後、各校において、教員の専門性を向上させるとともに、障がいに対する理解啓発を推進していただくことが大切であると考えております。

さて、教育界は、今、大きな改革の時期を迎えています。本日御講演いただくお二人は、これからの入試制度や、高校の魅力化による地域活性化など、新しい時代にふさわしい学校経営の在り方に造詣の深い方であります。各学校におかれましては、校長のリーダーシップの下、教職員が一致協力し、生徒や保護者のニーズに応え、地域に信頼される学校運営に取り組まれていることと思っておりますが、お二人の御講演を参考に、今後さらに、斬新な工夫・改善の方策を提言できる、バランスのとれた管理職として愛媛の教育の一層の充実・発展に御尽力いただきますようお願いいたします。

最後になりますが、本日の研究協議会が実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、挨拶いたします。